

基 調 講 演

テーマ：山口県の活断層と地震テクトニクス
～活動期に入った日本列島～



講 師：山口大学大学院 教授 金 折 裕 司

略 歴

昭和 50 年 名古屋大学大学院理学研究科 地球科学専攻 修了
同 50 年 (財)電力中央研究所 土木技術研究所研究員
同 60～61 年 米国ロスアラモス国立研究所客員研究員
同 62 年 岐阜大学 助教授
平成 8～13 年 理化学研究所 地震国際フロンティア研究員
同 9 年 山口大学 教授
同 14～17 年 (独)産業技術総合研究所 活断層研究センター主任研究員
同 18 年～ 山口大学 教授 大学院理工学研究科 (自然科学基盤系学域)

研究活動・著書

- 研究テーマ
中国地方の地震テクトニクス, 自然災害の発生メカニズム, 活断層地震の防災対策
- 著 書
『甦る断層』, 『断層列島』, 『活断層系』, 『山口県の活断層』(いずれも近未来社), 『足元に活断層』(朝日新聞社)単著, 『濃尾地震の教訓』(岐阜県歴史資料館), 『検証:災害とは何か』(リバティ書房), 『基礎地球科学』(朝倉書店)共著, 『Earthquake Proof Design and Active Faults』, 『Engineering Geological Advances in Japan for the New Millennium』(Elsevier 社, オランダ)編著

講演内容

平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨(気象庁命名)は, 山口県中南部や北部九州に深刻な土砂災害をもたらした, 山口県も自然災害に無関係ではないことを思い知らされました. さらに, 8 月 11 日静岡沖の地震(M 6.5)によって東名高速道路に被害が出て, 災害列島に住んでいることが再認識されました.

阪神・淡路大震災以降, 日本列島のあちらこちらで内陸大地震が発生し, 強い地震動とともに地盤の液化, 土砂災害, 河道閉塞などが誘発され, 大きな被害が出ています. まず, これら地震被害の特徴を豪雨による土砂災害と比較しながら, 特に中山間地域に注目してみましょう.

次に, 山口県内で確認されている大活断層, 東部の岩国断層帯, 中央部の大原湖断層系, 西部の菊川断層帯, および瀬戸内海の安芸灘断層群と周防灘(宇部沖)断層群の性状と活動性を説明します.

中国地方はアムールプレートの東進によって東西方向から圧縮されているため, いずれの活断層も地震を起こしやすいテクトニックな環境にあると言えるでしょう. 最後に, 上記活断層を起震断層とする地震動および地震被害想定概要を述べます.

現在は“平成の活動期”にあたり, 県内でも大地震がいつ起きても不思議ではありません. 断層と地震に関する正しい知識をもって常日頃から地震防災について考え, 減災に努力することが必要です.